



## 成長につながるエール

校長 小林 理人

昨日は梅雨明けが発表されました。今年はいまだに経験したことのない長い夏になりそうです。梅雨明け前から真夏のような暑い日が続き、今週から子供たちが楽しみにしていた水泳指導も始まりました。継続するコロナ禍により3年生までの子供たちにとっては今年度が初めての水泳の学習です。水の冷たさや集団行動に戸惑いを感じながらも水の感触を楽しんでいます。



6月のふれあい月間では「友達を元気にする言葉」を意識し、友達の良いところを見つけて伝えたり、友達を励ましたりする言葉かけをしたりすることを全校で取り組みました。そして、その言葉を善い行動や成長に繋げた子供たちの姿がたくさんありました。

### 日光移動教室(6年生)

6年生は6月15日(水)から2泊3日の日光移動教室がありました。継続するコロナ禍により初夏の日光を訪れるのは3年ぶりとなります。ご家族の支えもあり、65名の全児童が参加し元気に初夏の日光を楽しみ、子供たちがめざした「最高の思い出づくり」ができたようです。

子供たちは最高の思い出づくりのために、全ての行動において「みんなで楽しむこと」を意識しました。そして、楽しむ内容は2つありました。一つは日光の自然や歴史です。子供たちは自然や歴史を楽しむために事前の調べ学習を行い、見るものやすることを明確にして移動教室に臨みました。

もう一つは仲間とともに過ごす時間を楽しむことです。子供たちは自分のことだけではなく一緒に過ごす人たちのことを考えたり、しおりを見ながら予定を確認し、計画通りの行動ができるように心がけたりしていました。また、友達への言葉かけも意識していました。気付いていない友達へのアドバイスや、さり気ない感謝の一言などが子供たちの善い行動や笑顔につながっていたようです。

### 変わってきた言葉かけ

本校では、年間を通してふわふわ言葉や一声指導を意識しています。この取組を通して、教職員から子供たちへの言葉かけや子供同士の言葉かけが少しずつ変わってきているのを感じています。

6月に入って校長室前の廊下から聞こえてくる1年生の友達への言葉かけが柔らかくなってきています。「廊下は走らないよ」「静かに歩こうね」など、お世話になった6年生からの言葉かけをお手本にして友達の失敗や間違いを指摘する言葉かけをする子供が増えてきています。もちろん感情的な言葉を使う場面もありますが、日常的な言葉かけが変わってきています。

また、体力測定や縦割り班活動など、異学年で一緒に行った活動中も素敵な言葉かけをし合う場面がたくさんありました。「〇〇君、すごいね。」「腕の使い方が上手だよ。」など上学年が下学年に対して善い行動や成長につながる温かい言葉かけが日常化しつつあるようです。

言葉は「言霊」とも言われ、言語情報だけではなく自分の心を伝えたり人を支えたりする大きな力があると考えられています。温かい言葉は温かい想いとなり人の心を安定させたり、善い行動や成長を促したりする上で大きな支えになります。そして、温かい言葉を遣うことで自分の心も温かくなり、それを遣えた自分を誇らしく感じたりもします。

ふれあい月間では「友達の良いところを伝える言葉」「友達を元気にする言葉」を意識して生活することで善い行動が多くなり、自信をもって行動できる子供が増えてきました。また、学校生活アンケートや学校生活満足度調査により気付いた子供のつまづきや不安、困り感へのアプローチも進めています。1学期のまとめの月となる7月は「成長」という言葉を意識します。ふれあい月間で身に付けた温かい言葉を友達へのエールとし、それを個々の成長につなげていくことを期待しています。